

2007年制定 コンクリート標準示方書【施工編】

正 誤 表

(第1版・第1刷対応)

2008. 6. 16

	頁	行、図・表 番号	誤	正
本編	5	解説表2.2.1の項目1.	「生コン車」	「 アジテータ車 」
		解説表2.2.1の項目4.	「当り」	「 当たり 」

施工標準	25	21行目	「なされていたしかし」	「なされていた、しかし」
	26	6行目	「打ち込み時の」	「 打込み時の 」
	35	13行目	「構造体コンクリート」	「 構造物中のコンクリート 」
		16行目	「特殊コンリート」	「 特殊コンクリート 」
	45	表3.4.1の第6項目	「塩化物（塩化物イオン量）」	「 塩化物 」
	49	下から12行目	「再生骨材MやLは」	「再生骨材 MとL は」
	50	3.4.2(2)	「骨材として用いる砂利」	「 粗骨材 として用いる砂利」
		表3.4.3注1)	「残存したから採取する」	「残存した もの から採取する」
		表3.4.3 微粒分量の品質	「1.0以下 ²⁾ 」	「1.0以下 ^{2) 3)} 」
		表3.4.3注3)	「最大を5.0%にしてもよい」	「 最大値 を5.0%にしてもよい」
	56	5行目	「ブレーン比表面積」	「 比表面積がブレーン値で 」
	61	下から4,5行目	「連続繊維補強材コンクリート」	連続繊維補強コンクリート
	74	表4.4.1	構造条件の欄「最小断面寸法が1000mm以上」	削除
	76	表4.4.6 タイトル		タイトルに「(cm)」を追加
		表4.4.6 第3列の欄	「呼び強度の目安」	「 設計基準強度の目安 」
	88	6行目	「その表示には十分留意する。」	「 s/aと小文字で表示する. 」
	89	解説表4.5.2 第5,7列の欄	単位水量 「(kg)」 2箇所	単位水量 「 (kg/m³) 」
		解説表4.5.3 下2行	「kgだけ」 2箇所	「 kg/m³だけ 」
	105	最下行	「下回る確率を4.5(2)に」	「下回る確率を 4.4.3(2) に」

検査標準	189	解説2行目	「当所」	「 当初 」
	191	表2.1 第9列の欄	「7章 8.2」	「 8章 8.2」
	192	15行目	「生コンクリート」	「 レディーミクストコンクリート 」
	196	表3.4.1 備考1)	「塩化物（塩化物イオン量）」	「 塩化物量 (NaClとして) 」
	197	解説 8行目	「塩化物（塩化物イオン量）」	「 塩化物量 (NaClとして) 」
	209	解説 下から2行目	「細整備」	「 再整備 」
	219	条文(2)	「判断基準」	「 判定基準 」
	221	9.2 1行目	「取付ける」	「 取り付ける 」

2007年制定 コンクリート標準示方書【施工編】

正 誤 表

(第1版・第1刷および第2刷対応)

2009. 2. 9

	頁	行、図・表 番号	誤	正
施工標準	45	表3. 4. 2	注釈の抜け	脚注3) 空気量が3%以上で単位セメント量が250kg/m ³ 以上のコンクリートの場合、良質の鉱物質微粉末を用いて細粒の不足分を補う場合等に0.3mmふるいおよび0.15mmふるいを通るものの質量百分率の最小値をそれぞれ5および0に減らしてよい。
	127	下から7行目および6行目	「表8. 4. 1」	「表8. 2. 1」
	155	14行目	「表8. 4. 1」	「表8. 2. 1」

(第1版・第1刷～第3刷対応)

2010. 2. 18

	頁	行、図・表 番号	誤	正
施工標準	74	下から3行目	内部新動機	内部振動機

2010. 4. 15

特殊コンクリート	348	表10. 5. 1の1行目	試験・検査	試験・検査方法
		表10. 5. 1の2行目	圧縮強度	JIS A 1108の方法
		表10. 5. 2の1行目	試験・検査	試験・検査方法

2012. 5. 15

施工標準	105	下から4行目	品質条件における不良率を0.0013%	品質条件における不良率を0.13%
------	-----	--------	---------------------	-------------------